



皆さま、去年は本当にお世話になりました。
2019年もどうぞよろしくお願いいたします。
今更ですが、先月からブログを始めました(笑)
新しい年に向けて初心に戻る気持です。
その中のひとつをご紹介します。
私にとって、今でも忘れられない出来事です。

あいかわらず
ございました



広告代理店時代の失敗談。
とにかく当時はよく怒られたもんです
が、これは今でも忘れられない失敗の
ひとつ。

事務所に東京の広告代理店の社長さん
がお見えになりました。あいにくうち
の社長は外出中でしたが、特にお約束
ではなく出張の帰りにふと思いついて
立ち寄られたとのことでした。
すぐに戻ると思うんですがと告げると、
「ではちょっと待たせていただきます」
と、社長の席の横にある椅子に座られ

「お客さまに いかに気持ちよく 帰っていただくか」

ました。私もお名前だけは聞き覚えが
あり、その所作からも、懇意にしてい
ただいている方だと想像がつかました。
当時うちの会社では、来客時に担当が
席を外していたりする場合、手の空い
ている者がお客さまのお相手をしなが
ら担当が戻るのを待つという、誰が言
い出したのでもないけれどなんとなく
そうするのが当たり前な社風でした。
その時事務所にいたのは私を入れて3
人、アシスタントデザイナーの女の子
と電話中の先輩でした。
私は入稿する版下の梱包に追われてお

り、この状況でお相手するのは私だろ
うなあ...と思いながらも、自分の作業
を続けておりました。手を止めてお話
しするべきか、いやでも長くなったら
梱包が...

もう頭の中はあわわわ状態です。
そんな社内を静かにご覧になっていた
社長さんは、名刺に何か走り書きをし
て机に置き、「またご連絡します」と笑顔でお帰りに
なりました。

申し訳ありませんとお見送りしながら、
どうすればよかったのかモヤモヤして
いるところへ社長
が戻りました。
私の報告と、机に
置かれた名刺で社
長の顔が一瞬険し
くなり、「ちょっと
と来い」と、事務
所のビルの一階に
ある喫茶店に連れ
ていかれました。
ああ、またや...
もう気分は職員室
に呼び出される中

学生のよう。
社長はやはり、その状況では私が対応
するべきだったと言い、誰もお相手し
なかったという配慮のなさに対して怒
りました。
「どんなに忙しくても10分くらいあるや
ろう? ちょっとお茶行きましょって
お誘いして、事務所出る時にアシスタ
ントに、10分経ったら電話して呼び出
してってメモをそっと渡していくんや
」と言いました。
「話してる最中に事務所から電話が入っ
たら、あの人は絶対に『じゃあそろそ

ろ』って腰を上げはる。賢い人なら分
かるんや」と。

立ち寄った取引先で誰にも声をかけて
もらえず、残念な気持ちで新幹線に乗
り込む社長さんの背中が浮かびました。
もし私が機転を利かせていれば、たと
え短時間でもおもてなしの気持ちは伝
わり、きっと気持ちよく帰路につかれ
ただろうし、自社へ帰ってから、

「社長には会えなかったけど、忙しい中
社員さんがお相手してくれたよ」と、
そんな話もできたかもしれない。

せっかく東京から出て来てわざわざ立
ち寄ってくださった、しかもお世話に
なっている方を相手もせずお待たせし
て帰らせてしまったこと、
怒られましたねえ...

忙しいの言い訳や! 頭を使え!! と。
いやもうホンマにその通りでした。

「お客さまに、いかに気持ちよく帰って
いただくか」

これはその時、社長に教えられた言葉
です。

どんな時も相手の気持ちを想像するこ
と。「来てよかった、会えてよかった、
楽しかった」が、「また来よう、また会
いたい、ずっといたい」に繋がるのだと。
私にとって今でも道標であり、身の引
き締まる宝物のような言葉です。そし
て社内の問題はひとりひとり自分が自
分のこととして考える、そんなことも学
んでいた気がします。

ちなみにこの言葉はその後私の娘にも
受け継がれ、彼女は学生時代のバイト
をこれで乗り切ったという、世代を超
えて生き続ける普通の最強アイテムで
もあるのです。

商売の基本を教えていただく

独立前に勤めていた代理店は、今でも心齋橋の当
時と同じビルの中にあります。デザイナーとして
勤務しながらも、スタッフの数が少ないことから、
デザイナーだけではなく、打ち合わせ、広告原稿か
らキャッチコピー、デザイン制作、そして納品後
の請求や入金確認まで、一軒の取引先に対して担
当は一通りを任せられるというシステムでした。当
然いろいろ失敗をし、その度に怒られ怒鳴られ、
ただおかげで、どんな時もまず自分で考え行動

ほっ
とことこ



することが身に付きました。そして最後の最後は、
どんなことがあっても社長が必ず守ってくださ
ると、安心して思い切り仕事をすることができました。
今こうして独立し何とかやっていけるのは、あの
頃経験した全てのことが血となり肉となっているか
らだと思います。

約30年前の、携帯もネットもなかった時代の失敗
談。何とか考え工夫することで乗り切った時代、あ
の時学んだことが私の中の基本です。2019年、新
しい年が来て変わらず持ち続けていきたいです。

デザインと イラストと きかく

小路好美

制作ルーム / 大阪府南河内郡河南町 148-2

www.d-i-p-shouji.com

mail@d-i-p-shouji.com

作品FBページ /

https://www.facebook.com/y.shouji1214